



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2014/10/03(金)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 155

長崎がんばらんば国体2014、北海道予選会

指導者育成専門委員会
川村 健二

例年開催されている江別市体育館が耐震工事のため使用出来ず、本大会は8月15日から17日までの3日間、旭川市で開催されました。市内高校生の協力によって、きびきびとした雰囲気の大大会運営の中で、特に成年・少年男子に白熱した戦いが繰りひろげられ、会場も例年以上に観客が多かったように感じました。

少年男子、苫小牧選抜が札幌選抜を破り見事、初優勝を飾る！

札幌選抜は東海大第四を指揮する佐々木睦巳監督が、アジアU18の大会にコーチスタッフとして参加のため、キャプテン・エースの内田と共に不在。やはり高校生、当然ながら攻守がかみ合わず、最初からリードを許し、苫小牧が快勝した。

駒沢苫小牧はインターハイ予選で東海に完敗したが、しっかりとチームを鍛えあげ、明らかにレベルアップして大会に臨んで来ていた。苫小牧を優勝に導いた田島監督は駒沢大付属苫小牧高校に勤務して12年、高体連・国体・ウインターカップを含めて初めて、全道大会の優勝を手にした。

まだ30代、今後、佐々木睦巳氏とともに北海道を支えていく指導者となっていくものと大いに期待したい。また、準決勝で札幌を苦しめた帯広選抜も印象に残った。率いる白樺の宮下監督も田島氏と同様に、更なる一步を踏み出せるか、注目していきたい。

少年男子は最終的に札幌選抜から3名を加えたメンバーで大会に臨むこととなった。今年には都道府県対抗となっており、高体連以上の成績を残せるか、期待し声援を送りたい。

成年男子、札幌選抜、旭川選抜に昨年度の雪辱を果たし優勝したが・・・？

成年男子はEBETSU W・Bを中心とした札幌選抜が、旭川キシイを中心とした旭川選抜を振り切り優勝を果たした。ロースコアの息詰まる接戦を制したのは、ディフェンス力と札幌⑩(日大)高橋、⑧(札大)志水を中心とした学生の若さであった。

残り5分、同点の場面で高橋、清水が、連続得点を重ね、53-45と最後に突き放して昨年の雪辱を果たした。旭川は選手を総入れ替えしながら、ゾーンで主導権を握ろうと試みるも、最後にミスが続き、外郭シュートもことごとく外し万事休す。お互い死力を尽くした感の余韻の残る試合であった。

お互いスタート選手の平均年齢がかなり上がってきている様子で、当然ながら今後、道内若手選手の育成が必須条件となろう。

少年女子、札幌選抜が 10 連勝、成年女子、札幌選抜が 25 連勝を果たす！

少年女子は、オール山の手高校の札幌選抜が、旭川藤女子主体の旭川選抜を一蹴、危なげない試合で 10 連勝を果たした。旭川は準決勝で帯広大谷単独の帯広選抜に延長の末 1 点差でやっと逃げ切り、高体連同様決勝に駒を進めたが、札幌の牙城を崩すまでに至らなかった。むしろ怪我等で高体連道予選に出場出来なかった帯広大谷の健闘が光った大会でもあった。

成年女子は、アカシアクラブ中心の札幌選抜が、学生に頼らざるを得なかった旭川に貫録勝ち。平成元年、道選抜で臨んだ「はまなす国体」以来、25 連勝を飾った。

今年度の第 69 回国民体育大会は、10 月 18 日から 22 日までの 5 日間、成少年男子は長崎市で、女子は大村市でそれぞれ開催されます。この内、少年男子は 47 都道府県対抗、その他は都道府県 12 ブロックでの争いです。長崎での国体は昭和 44 年、第 24 回大会が開催されており、まさに 45 年ぶりの開催となっていますが、今年度はどんな熱戦が繰り広げられるのか、北海道代表チームの活躍を大いに期待したいところです。

お盆休みの、しかも連日 30 度近い気温の中で、会場準備や前日の開会式を入れると丸 4 日間、道事務局はじめ旭川地区協会のスタッフの方々も大変な様子でした。

お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。